



前期中間試験

日本史範囲

彼女と日本史わず♥
に使っていいよ！

まず…

歴史学って何？

歴史学とは、過去を対象とする教科のことだよ！

主に文学史料(文献)を用いるの！



時代区分

	原始 共産制の 無階級社会	古代 奴隸制 市民・奴隸	中世 農奴制(封建制) 領主・農奴	中世 (近世)	近代 資本制 資本家・労働者
縄文	土器の形質				
弥生	が由来				
古墳					
飛鳥		飛鳥から江戸			
奈良		は政治の中心			
平安		が由来			
鎌倉					
室町					
織豊					
江戸					
明治					明治からは
大正					天皇の送り名
昭和					が由来
平成					
令和					

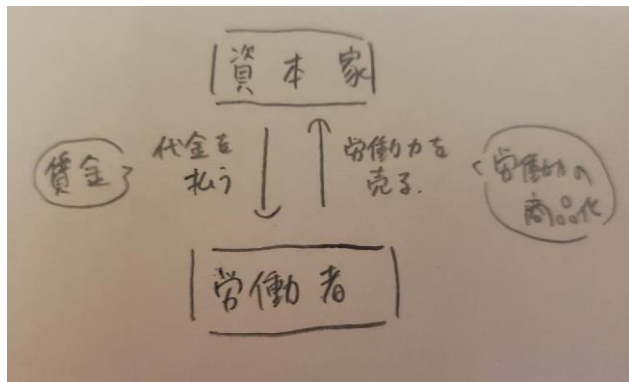
日本の近世とは、主に江戸時代のことだって。

歴史の三分(四区分)法：ルネサンス期にカール・マルクスが「発展段階論」として設立した。

古代　中世(暗黒の時代)　近代(中世の暗黒さが治った時から)　⇒階級社会の時代

これには、このままだとずっと近代が続いてしまうという問題点があるよ。

資本家の定義：生産手段を私有している人



資本家階級 →説明がとわれる！

生産手段を所有し、賃労働者を雇って事業を行い利益を得る階級

原始の日本列島 ⇒まだこの時は正式な日本ではなかった。

〈旧石器時代〉

・打製石器を使用 **岩宿遺跡**によって旧石器時代があったことが立証。

〈新石器時代〉

・磨製石器使用

⇒**土器**の使用を開始で煮炊きが可能になる。保存にも使用

例) 堅果植物 → 食料の拡大 →人口増

日本の新石器時代 = **縄文時代(約1万～1万2千年間)**と言われている

彼女から補足♥

戦前までは、日本に旧石器時代なんてなかったと言われていたけど、戦後に相沢

忠洋が独学で考古学を学んで、群馬の関東

ローム層で打製石器らしきものを発掘して見つけたんだって！！

〈縄文時代晩期〉

原始農耕の開始

〈弥生時代〉(BC 4 ～AD3 700 年ほど続いた)

水田稲作農耕の伝来

年間の特定の時期にたくさんの労働力が必要 = 共同作業が必要

水(用水)の管理も共同で行う → 強固な共同体を形成(ムラ)

「個は共同体に埋没する」⇒共同体規制

大河川の統治：強大な権力者の存在(皇帝)が必要

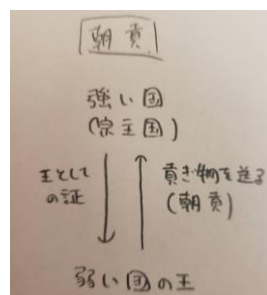
共同体を通して人々を支配＝アジア的生産様式 ⇒ 総体的奴隸制

このころ、奴国王が中国の皇帝に朝貢⇒「漢委奴国王」は印綬(昔、官に勤める人

が身につけた、身分や位階を表す印をさげる組みひも)を与えたよ。

「漢書」地理志によると、小国の戦争状態が続いていたみたい

彼女から補足♥ 朝貢を図解で！



———文献の解説コーナー！———

1 「漢書」地理志

夫れ楽浪海中に①倭人有り。②分かれて百余国と為る。歳時を以て来り③献見すと云ふ。

① 倭人…日本人

② 分かれて百余国…このころの日本は百余に分かれていて、小国で分立状態が続いていた

③ 献見…朝貢すること

2 「後漢書」東夷伝

建武中元二年、①倭の奴国、貢ぎを奉じて②朝賀す。使人自ら大夫となす。倭国の極南界なり。③光武、賜ふに④印綬を以てす。

安帝の永初元年、倭の国王帥升等、⑤生口百六十人を献じ、請見を願ふ。桓靈の間、倭国大いに乱れ、⑥更相攻伐して歴年⑦主なし。

① 倭の奴国…倭の一番南の国 ②朝賀…奴国王が中国に貢いだ。

③光武…当時の後漢の皇帝の名前 ④印綬…金印

⑤生口…奴隷 ⑥更相攻伐…戦争

⑦主なし…このころ、国の統一者がいなかった。

3 「魏志」倭人伝 3世紀

(本文略)

①旧百余国…前は百余国に分かれていた

② 対馬国…邪馬台国 or 長崎説あり

③ 黥面(げいめん)…入れ墨

授業で扱ったこと

・租賦…**税制**。 **剰余生産部分が成立していたことを裏付ける**

・市…**交易**がおこなわれている →交換価値の成立

・下戸…**一般の人々**

・大人…**旧首長クラスの人**

身分

・女王…**王**

・奴婢…**奴隸**

階級関係

・大倭…**市の監視** ・一大率…**警察**のような存在、軍事を担当

卑弥呼：日御子 呪術によって人を導く神・シャーマンのような存在

原始宗教：アニミズム → **日本の神道はアニミズムから派生している**

邪馬台国→**ヤマト**説と**北九州**説がある 古代国家の萌芽

4 倭王武の上表文 「宋書」倭国伝 5世紀

(原文略)

倭王武：雄略天皇(21代)

雄略天皇自身が九州(朝鮮半島も含む説)から東北の一部までを平定

⇒大和政権と呼ばれるようになる

祖禰(そでい)…私の祖先

彼女から補足♥

灰色のラインが引かれている語句は、過去問で出題されていた語句だよ！

また、語句の説明もテストの問題として出てくるから、まずは過去問で出さ

れていた語句をしっかり押さえようね！

5 大化の改新の詔 詔⇒天皇の命令 7世紀

其の一に曰く、… 処々の屯倉(みやけ)及び、別には … 処々の田荘を罷めよ。

よりて食封も大夫より以上に賜ふこと。

其の二に曰く、「初めて京師をおさめ、畿内、国司、郡司 … 関塞を置き、及び
鈴契を造り、②山河を定めよ。」

其の三に曰く、「初めて戸籍・計帳・①班田収授法の法を造れ」…

大化改新

私有地・私有民の廃止⇒公地・公民制の創出

中央・地方の行政の整備・交通・軍隊などの整備

① 班田収授法の施行

6年ごとに戸籍を作成し、6歳以上の男女に口分田を支給

⇒6年に1回しか変わらないので不公平

良民 男子：2反(720歩) 女子：4/3反(480歩)

賤民 それぞれの1/3

口分田は戸主に支給。死後は収公。

② 山河を定めよ…国郡の境を定めよ

彼女から補足♥(超大事) 新税制の導入

税制

租：口分田に賦課収穫の 3%(2 束 2 把)

調：諸国の特産品 例)布、鉄、海産物

庸:歳役(労働奉仕役) 正丁で年間 10 日

雑徭:歳役の一つ。国内の雑用(土木工事など)国司の命令による

出挙(すいこ):春に稲を農民に強制的に貸付、秋に年利 5 割ほどで回収する制度

義倉:備荒貯穀

兵役:正丁 3~4 人に 1 人

防人(九州防備) 衛士(宮中防備)

⇒税の物資をお金に換算すると、総生産の 8 割前後の負担：必要再生産部分に

食い込む =相対的奴隷制

7 三世一身法 ←要チェック！

浮浪・逃亡の民の増加 →百姓にとってはかなりハードだった！

口分田の不足

対応策として、百万町歩の開発計画をたてた。

三世一身法(723) →テストで説明が問われるよ！

新規に用水地や用水路を造って開墾した場合は三世代、従来からの用水地や用水路を用いて開墾した場合は一代に限って開墾地の私有を認めるという法令

8 墾田永年私財法(743)

(文略)

開発中に限って私有を認める⇒荘園 初期荘園は、輪租園で国司が徴収した。

開発者は豊富な資金と多くの労働力を確保 =中央・地方の豪族…大寺社など

豪族たちは開発領主 荘園領主と呼ばれる

労働者⇒浮浪・逃亡の民(資料6)が多くを占める。

自墾地系荘園

荘園領主の争いで、国司による荘園侵略が多発

資料9 荘園の寄進

(略)

寄進⇒差し上げる 当時の相承は、由来という意味を示す。

開発領主 ⇒ 相続 ⇒ 高方：預所になる ⇒寄進：年貢 400 石⇒實政：領家

となる ⇒相続 ⇒願西 ⇒願西：国司の侵略を防げず⇒ 寄進：年貢 200 石

(400 石の半分) ⇒ 高陽院内親王：本家となる

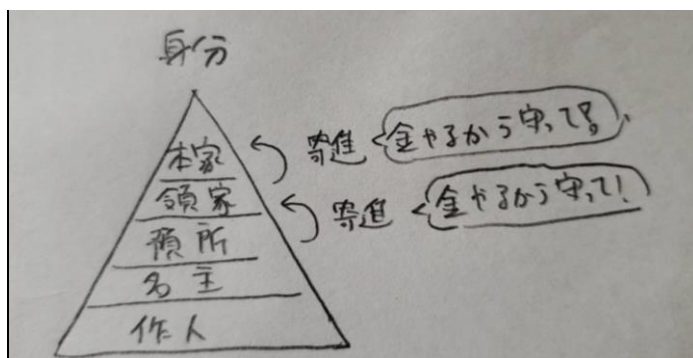
わかりづらいけど、寄進しまくることでより強い人に領地を守ってもらおうってことだよ！



本家⇒領家⇒預所⇒作人⇒領主 という身分の順番

→開発領主は領家に寄進したあとに自分たちを預所とよんだよ

このことを、自墾地系荘園に対して寄進地系荘園という



職(しき)…権利

本家職 領家職 預所職 名主職 作職

⇒職の体系 = 重層的土​​地支配 ⇒寄進地系荘園

中世

封建制 (農奴制)

土地を媒介とした主従制

⇒主が従に対して、領地・領民の支配権を認める…御恩

従は主に対して軍事負担を行う…奉公

封建制

→説明が問われる！

土地の給与を通して主従間に御恩と奉公という支配階級内部の関係が成立した体

制 鎌倉時代成立時に成立。

御恩と奉公の補足 ♥

御恩…本領安堵 →説明が問われる！

奉公に対し、先祖伝来の領地(本領)の支配権を改めて認めること。

新恩給与:戦功などに応じて新しい土地の支配権を与える

奉公

戦時：軍事奉公 平時：番役(鎌倉番役、大番役など) 一所懸命！

農奴制

土地や農具を持つ小農民が土地からの移動の自由を奪われ農奴として領主に**現**

物地代(年貢)を納める体制 ⇒テストに出る可能性有。

成立時 : 不明(諸説あり)

有力 1 南北朝期 2 戦国時代 3 江戸時代の太閤検地

宗教

神道…**アニミズムから派生したもの** →**卑弥呼**

自然現象…人知を超えた不思議な力による現象

カミ **八百万神**⇒人間に恵みと恐怖をもたらす 鎮める＝祭り＝政

6C半：仏教の伝来

仏と日本の神々を区別する必要 ⇒神道の成立

神道が残った理由＝**天皇の存在の正当性**を維持

奈良仏教

南都六宗

華嚴宗 法相宗 三論宗 律宗 成実宗 俱舍宗⇒**学問**としての要素が強い

目的：鎮護国家…国家仏教

平安仏教

真言宗 : 空海

天台宗 : 最澄 ⇒ 密教(修行の仕方が秘密っぽい)

本地垂迹説 → 説明がでる！

本地とは、仏の真の姿を意味し、垂迹とは仏が衆生を救済するために日本の神の姿として現れたとする説。

例) 大日如来が本地 ⇒ 天照皇大神が垂迹

鎌倉仏教 → 顕教(分かりやすい)、易行(実践しやすい)

浄土教系

・ 浄土宗(法然)

・ 浄土真宗(親鸞) : 南無阿弥陀仏、悪人正機説

⇒ のちに本願寺 8 代法主となった蓮如が「お文」によって広める

・ 時宗(一遍) 阿弥陀信仰 : 念仏宗(念仏を唱えることで救われる)

禅宗系

・ 臨済宗(栄西) → 公案禅

・ 曹洞宗(道元) → 只管打坐 座禅系 : 座禅による修行

法華経系

・ 日蓮宗(日蓮) → 題目唱和 : 南無妙法蓮華経

一揆

戦国時代→一揆の世

一揆：同じ立場の人々による横の連帯

土一揆

例) 正長の土一揆(徳政一揆(土民と呼ばれる人が、借金の帳消しを行う一揆))

最初の土民蜂起：土民による徳政要求

「正長元年ヨリ先ハカンへ四ケコウニヲイメアルヘカラズ」

「正長元年より以前に神戸の四箇郷に負い目はありません」

惣（惣村）

村人たちの一揆…領主支配を極力排除、自治を実現

目的：戦乱から村を防衛する

構成員・指導者層 + 一般の市民

→指導者層のことを地侍、長百姓、乙名、年寄、沙汰人と呼ぶ

惣村の運営 衆議によって定めた惣掟＝地下掟による

惣掟→自検断 検断権は領主の権限

自検断 →説明が問われる！

惣掟の違反者に対し、惣自らが仕置権を行使すること。

地下請(百姓請)：惣村が全体で年貢を請け負うこと

自由都市

町(都市)の人々の一揆

領主支配を排除して自治を実現する

例) **堺**＝「大いなる商人」たちによる自治を実現

大いなる商人→会合衆（36名）による交代・合議制

その他 平野(年寄衆) 京都下京(月光夜)

桑名(四人衆) 大湊(老分衆) 博多(年行事) など

宗教勢力による一揆

例) 一向一揆： 浄土真宗本願寺派門徒による一揆

8代法主 **蓮如** →お文による布教 門徒によって各地に道場、寺内町が形成

加賀の一向一揆：自分たちで守護を取り立てて、自治を実現(百年間)

守護(富樫)の人々自殺→一人のみ生存(泰高)

生き残った人を名目上の守護にして、百姓が主導権を握った世界に。

武士による一揆

国人一揆(国一揆)：中小武士団の長・在地領主の一揆(国人)

例) 山城国一揆：守護を打倒して国人による運営を実現＝**下剋上**のあらわれ

統一政権

大和政権：天皇+貴族政治 摂関政治 院政

↓

鎌倉・室町政権：幕府(武家)政権 + 権門勢家

日本 東日本：武家政権

西日本：権門勢家

守護大名 → 戦国大名：今川氏

守護代 → 戦国大名：織田氏

国人 → 戦国大名：徳川氏

一揆によって成長

名主 → 戦国大名：豊臣氏

⇒統一政権：江戸時代

一揆を否定

彼女から補足♥

統一政権 織田 豊臣 徳川 …中間地帯出身

→全国を同じ理論で統一したよ！

南蛮貿易とキリスト教

東洋進出

背景：大航海時代(15C 末～16C)

スペイン：西廻り⇒アメリカ大陸 → マニラ

ポルトガル：東廻り⇒アフリカ大陸南端 → マカオ

明：海禁政策 東アジア諸国と貿易

南蛮貿易

ポルトガル人が種子島に来航 スペイン：平戸を拠点

→鉄砲、火薬、生糸をもたらし銀と交換

→戦国大名が購入 → 自力生産 → 統一戦争を促進

キリスト教

イエズス会のザビエルが鹿児島に来航

大名(キリシタン大名)の保護

宣教師の努力 →急速に普及

天正遣欧使節：ヴァリニャーニのすすめ

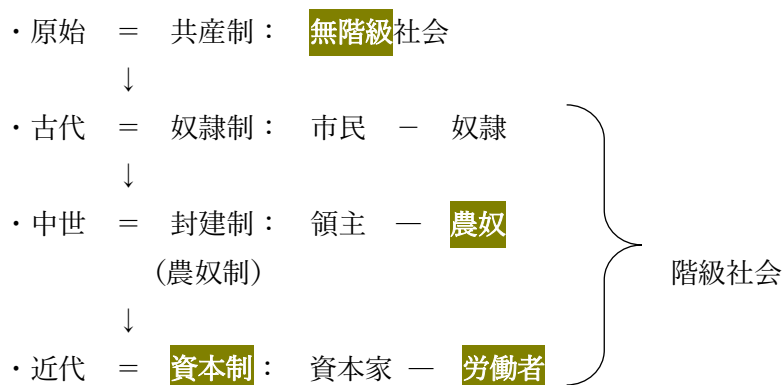
ローマ法王のもとへ派遣(1582～90)

伊藤マンショ 千々石ミゲル 原マルチノ 中浦ジュリアン

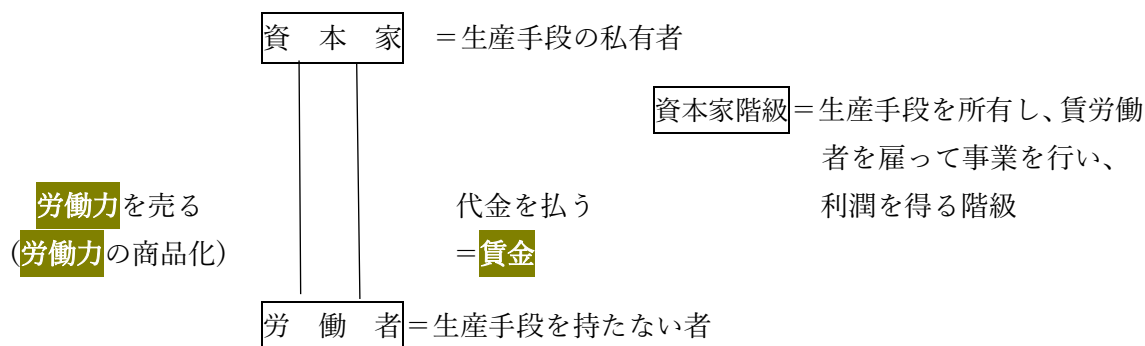
●日本史の時代区分を4区分(原始・古代・中世・近代)

●鎌倉から江戸時代までは封建制＝中世であるが同じ封建制でも鎌倉・室町時代と江戸時代ではシステムが大きく異なるので、江戸時代を**近世**と呼んで区別している

●世界史の三分法(原始を入れると四区分法)



●近代も階級社会



▼原始の日本列島

●旧石器時代(先土器時代)

・打製石器を使用 例) **岩宿遺跡** など

●新石器時代(縄文時代)

・**磨製**石器を使用 ・**土器**の使用開始

食料の保存や**煮炊き**が可能になる

→堅果植物の食料化 → 人口増加

・日本の新石器時代 = **縄文時代** : **約1万～1万2千年**続いた
晩期には原始農耕が開始

●弥生時代

水田稲作農耕の伝来

- ・年間の特定の時期に**集中労働**投下が必要　・**水**の共同管理が必要
→強固な**共同体**を作成　・共同体：個は共同体に埋没する
- ・大河川の統治：強大な権力者の存在を前提とする
- ・中国の皇帝　エジプトのファラオなどの強大な権力＝専制帝国が共同体を通して人々を支配する体制＝**アジア的生産様式**　＝**総体的奴隷制**

▼文字で記された日本列島

●「漢書」地理誌

- ・BC→AD頃　・「分かれて百余国となる」　＝**小国**の分立状態

●「後漢書」東夷伝

- ・西暦50年ころ　・倭の奴国王が中国皇帝へ朝貢　・金印「**漢委奴**国王」を授かる
- ・小国の戦争状態

●「魏志」倭人伝

- ・3Cころ　・邪馬台国の様子が記されている。
- ・「租賦」：**税制**が行われていたことを示す　＝**剰余**生産部分の成立
- ・「市」交易がおこなわれていたことを示す。＝**交換**価値の成立
- ・「大人」（旧首長クラスの人々）と「**下戸**」（一般人）との関係＝身分の成立
- ・「女王」＝卑弥呼と「奴婢」の存在＝**階級**関係の成立
- ・「大倭」（市の統一者）や「一大率」（軍事・系圧）の存在＝役人制度の成立
- ・「卑弥呼」＝(**シャーマン(神)**)として人々を導く＝「鬼道を事とし、能く衆を惑はす」
- ・**邪馬台国**＝古代国家の萌芽・過渡期の国家

●「宋書」倭国伝

- ・5世紀ころ　・倭王五王＝讃、珍、済、興、武　・倭王**武**＝**雄略**天皇(21代)
- ・倭王**武**の上表文：九州から東北地方の一部までを平定　→　のちの**大和**政権

▼改新の詔

●私有地、私有民の廃止　→　**公地・公民制**

- ・天皇・皇族の私有民＝「**子代の民**」、私有地＝「**屯倉**」
- ・**豪族**の私有民＝「**部曲の民**」、私有地＝「**田荘**」

●中央、地方の整備

- ・都、国司、郡司、国郡制、軍隊、交通などの整備

「**山河**を定めよ」＝**国郡**の境界を決める。

●班田収授法の施行

- ・**6年**ごとに戸籍を作成し、6歳以上の男女に口分田を支給させ、死後は収公。

●新税制の導入

▼新税制

- 租＝**口分田**に賦課 収穫のおよそ3パーセント(2束2把)
- 調**＝諸国の特産物をおさめる 例) 絹、布、海産物、鉄など のちに金納
- 庸＝**歳役**(労働奉仕役) 正丁(成年男子)で年間10日
- 雑徭**＝歳役の一つ 土木作業などの国内の雑用：国司の命令による
- 出挙**＝稲の強制貸付 年利5割
- 義倉＝備荒貯穀
- 兵役＝正丁3～4人に一人 衛士＝諸国の軍隊 **防人**＝九州の防衛
- 総税(換算)：生産の8割程度 相対的奴隷制

▼荘園制

- 班田農民の浮浪・逃亡
- 相対的人口の増加、口分田の荒れ →耕地不足

●**三世一身法**

・新規に用水池や用水路を造って開墾した場合は三世代の間、従来の用水池や用水路を用いて開墾した場合には一代のみの開墾地の私有を認める。

・律令政府自らが公地公民制の原則を破る

●墾田永年私財法

・開墾地＝墾田に限って永久私有を認める

●初期荘園(**自墾地**系農園)は**輸租田**：租を国家が徴収する。徴収権は**国司**が持つ。

・公有地＝口分田と私有地＝開墾地(墾田)が併存する体制が成立

●開発者＝**開発領主**：中央・地方の豪族や**大寺社**など 開発従事者：浮浪・逃亡の民など

●荘園領主間の対立：境界などをめぐる対立(武力)が増大

●**国司**による荘園侵略の多発：**国司**が租の徴収権を持つことが原因

●荘園の寄進

・開発領主による寄進：寄進者は**預所**となり、被寄進者は**領家**となる

・領家による寄進：被寄進者は**本家**となる

・開発領主→預所の配下には複数の名主が存在、さらにその下には複数の作人が存在

・権利＝**職** 複数の職が重なり合った構造(重層的土地支配：職の体系)の荘園となる＝**寄進地**系荘園

▼日本の中世

●マルクス の区分：中世＝封建制・農奴制の時代

●封建制：土地の給与と通じて主従間に御恩と奉公という支配階級内部の関係(法秩序)が成立している体制

●鎌倉時代の御恩

- ・本領安堵＝奉公に対し先祖伝来の領地(本領)の支配権を改めて認めること
- ・新恩給与＝戦功などに応じて新しい領地を与えること

●鎌倉時代の奉公

- ・平時：大番役、鎌倉番役など＝警固役
- ・戦時：主君の戦闘に参加

●農奴制：土地や農具を持つ小農民が土地からの自由を奪われ、農奴として領主に現物地代をおさめる体制

●日本における封建制の成立＝鎌倉幕府の成立時

●日本における農奴制の成立＝諸説がある：すべて封建制の成立より遅い

- ・南北朝説
- ・戦国期説
- ・太閤検地による説

▼神道と仏教

●神道：アニミズムから派生「カミ」：自然現象、自然そのもの

＝人知を越えた不思議な力→恵と恐怖をもたらす←鎮める(祭)

●日本の仏教の伝来＝6世紀の半ば

●仏教の仏へと日本の神を区別する必要から神道という名称が成立

●奈良仏教：南都六宗

学問的 鎮護国家が目的＝国家仏教

●平安時代：入唐僧 空海：真言宗 最澄：天台宗 とともに密教

●仏教のドグマ(教義)他の神を否定しない(日本の神も)

→本地垂迹説＝本地とは仏・菩薩の本来の姿であり、垂迹とは仏が衆生を救済するために日本の神の姿で現れたとする説。例えば、本地仏一大日如来 など

- ・神道と仏教の融合＝神仏習合

●鎌倉仏教

●浄土教系 浄土信仰 念仏宗

- ・浄土宗＝法然
- ・浄土真宗＝親鸞
- ・時宗＝一遍

●禅宗系 座禅による修行

- ・曹洞宗＝道元：(只管打坐)
- ・臨済宗＝栄西：公案禅

●法華経系 法華経を中心とする

- ・日蓮宗＝日蓮：題目の唱和(間違ってたらごめんなさい)

●親鸞の教え

- ・弟子である唯円の「歎異抄」に示されている
- ・「善人なお持て往生をといぐ、いわんや悪人をや」

悪人正機説＝阿弥陀の本願とは悪人を成仏させることである。とすれば阿弥陀(他力)にすがろうとする気持ちの少ない善人でさえも極楽へ往生できるのだから、ましてや阿弥陀にすがり切るしかない悪人が往生できないはずがないとする説

●鎌倉仏教

- ・教えが秘密めいてなくて分かりやすい＝顕教
- ・誰でも行い得る＝易行

▼一揆の世

●室町時代の後半 戦国時代：一揆の世

●一揆＝同じ立場(境遇)にある人々による横の連帯

●土一揆・徳政一揆 例) 正長の土一揆

- ・1428年の蜂起
- ・土民による蜂起＝土一揆
- ・徳政＝借金の帳消しを要求した一揆＝徳政一揆

●惣村

- ・衆議によって定めた惣掟に基づき惣村を運営：領主支配を極力排除
- ・惣村の指導者＝地侍、長百姓、年寄、乙名、沙汰人など
- ・自検断＝惣掟などの違反者に対し惣自らが仕置権を行使すること
- ・地下請＝領主の干渉を避けるため、惣全体で年貢を請け負うこと
- ・惣村の目的＝戦乱から村を守る

●自由都市＝町(都市)の人々の一揆

例) 自由都市 堺

- ・領主支配を排除して執政官による自治を実現 執政官：堺の場合は会合衆
- ・堺のほかに ・博多：年行事 ・京都下京：月行事 ・大湊：老分衆 など

●宗教勢力による一揆

●一向一揆

- ・浄土真宗本願寺派門徒による一揆
- ・本願寺8代目法主＝蓮如：「お文」による布教
→全国各地に道場や寺内町を形成
- ・一向一揆の論理：本願寺法王国の建設 ←武士とは異なる論理

●加賀の一向一揆

- ・守護を打倒 →一揆勢によって新守護をとりたてる
- ・約100年間の自治を実現

●国一揆 例) 山城国一揆

●国一揆(国人一揆)＝中小武士集団の長、在地領主等による一揆。守護大名などに対抗するために一揆を結んだ。

山城国一揆

- ・守護畠山を追放し、国人による統治を実現…下剋上の様相

▼戦国大名の出自

- 守護大名→戦国大名＝今川氏 ●守護代→戦国大名＝織田氏
- 国人→戦国大名＝徳川氏 ●名主→戦国大名＝豊臣氏
- 東日本＝旧武家勢力が強い ●西日本＝権門勢力が強い
- 織田・豊臣・徳川＝統一政権：中間地帯から出現 東西の影響力が少ない
惣、国人一揆によって成長＝下剋上
統一政権になると一揆を否定＝近世権力 → 江戸時代

▼南蛮人の来航

- ヨーロッパの東洋進出：背景＝大航海時代…航路開発
- スペイン：西廻り → アメリカ大陸 → マニラ
- ポルトガル：東廻り → アフリカ大陸南端 → マカオ
- ポルトガル人の種子島来航(1543年) ●スペイン人→平戸
 - ・鉄砲、火薬、生糸をもたらし銀と交易
 - ・鉄砲：戦国大名の購入・生産 →統一戦争を促進
- キリスト教
 - ・イエズス会のサンフランシスコ・ザビエルが鹿児島に来航(1549年)
 - ・キリスト教：大名の保護と宣教師の努力 →急速に普及
 - ・天正遣欧使節：宣教師ヴァリニャーニの企画、戦国大名大友宗麟・有馬晴信・大村純忠がローマに派遣した使節